

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

※レギュラー・ジュニアの部

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。 四、五日目で連続する2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板してなくても連続する2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休※捕手可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。
投手G	40 40	40 休	休	0 40	40 40	休	3連投は40球以内なので可能であるが、第二日目第二試合・第六日目は投手・捕手として出場できない。 また、3連投する場合、1試合目・2試合目は打者の途中であっても40球以内に交代しなければならない。

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

※レギュラー・ジュニアの部

	第一日目	第二日目	第三日目	第四日目	第五日目	第六日目	備考
投手A	70	0	70	0	70	0	70球投げた翌日には登板していないため、翌々日には70球投球できる。 ※打者終了時に70球を超えても、1試合分の最大カウント数は70球
投手B	70	35	休	70	0	70	連続する二日で105球の制限があるため、一日目70球投球した場合、二日目は35球が最大となる。
投手C	30	30	休	40	65	休	1日の最大投球数70、かつ連続する二日間105球未満だが、3連投禁止のため、第三日目は登板できない。※捕手としては出場可能
投手E	50 20	休	70	0	70	0	ダブルヘッダーの登板は可能だが、1日70球制限のため、第一日目の1試合目に50球投球した場合、2試合目は20球が最大となる。 また、ダブルヘッダーで2試合登板した場合、連続する二日間投球を行ったことになるため、第二日目は登板できない。※捕手としては出場可能
投手F	35	0 70	休	70	35 休	休	第一日目(第四日目)に登板しているため、第二日目(第五日目)のダブルヘッダーは、1試合目、2試合目どちらかしか登板できない。加えて、3連投禁止のため、第三日目(第六日目)は登板できない。※捕手としては出場可能 連続する二日で105球の制限があるため、第二日目は70球、第五日目は35球が最大となる。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。
※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。